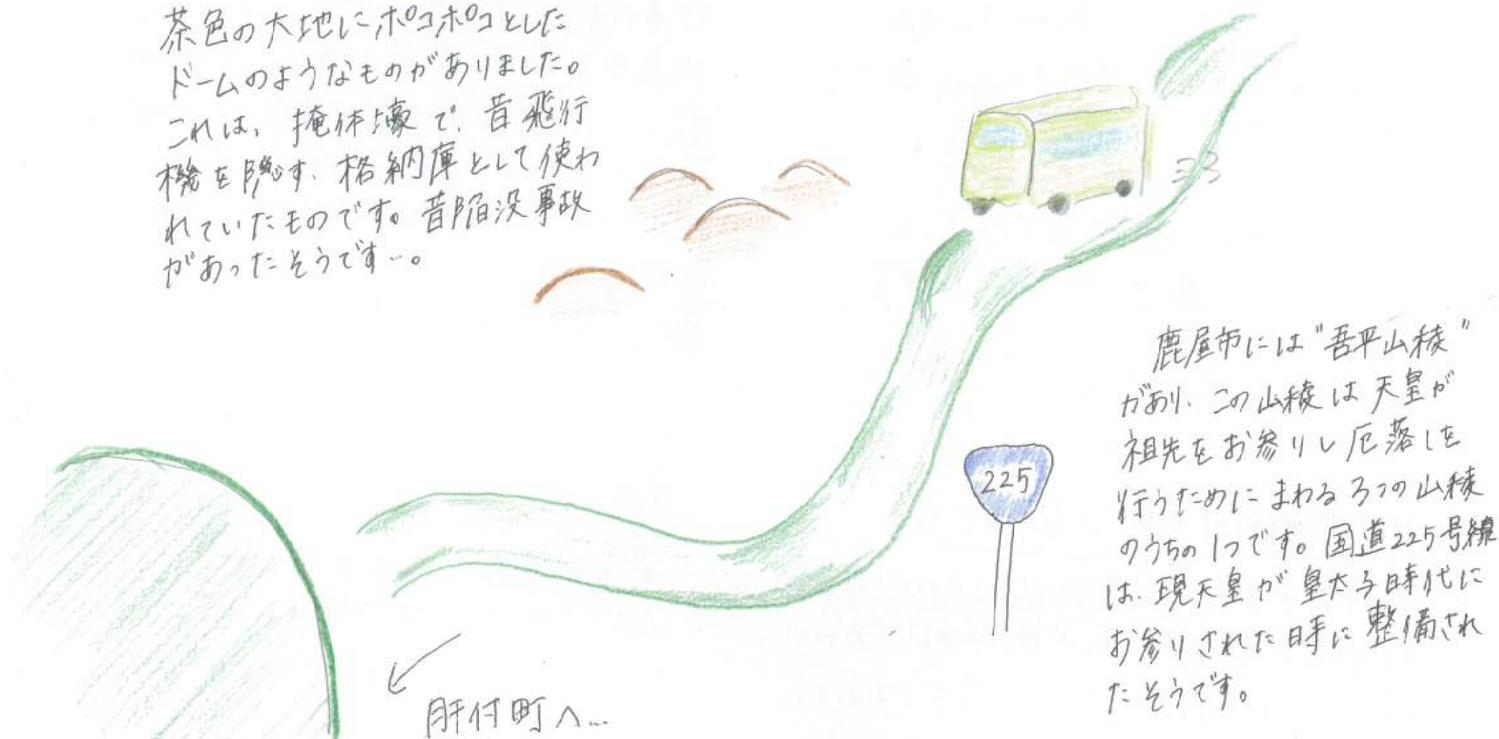


～ 肝付・大浦へ行ってきました～

2017.1.29. 肝付町の最南端、大浦地区にお邪魔しました。  
 平家の落人伝説のあるこの地区では、高齢化率100%にも関わらず、地区の住民が  
 支え合いながら、生活されていました。保健師の能勢さん、地域包括支援センターの  
 職員の方々、地域の方々、町役場の方々、運転手さん、村野さん... 様々な方のおかげで  
 この地域に根付く暮らしの知恵や今後の課題、歴史等、見てきて感じて、  
 学ぶことができました。しっかりと自分の記憶に残るように、また色々な人に伝えられる  
 ように！ 記録していきたいと思います。

 行き: 鹿児島(鴨池港)<sup>フェリー</sup> → 垂水港 <sup>バス</sup> → 大浦地区

茶色の大地にホコホコとした  
 ドームのようなものがありました。  
 これは、掩体壕で、昔飛行  
 機を隠す、格納庫として使わ  
 れていたものです。昔陥没事故  
 があったそうです。



鹿屋市には「吾平山稜」  
 があり、この山稜は天皇が  
 祖先をお参りし厄落しを  
 行うためにまわる3つの山稜  
 のうちの1つです。国道225号線  
 は、現天皇が皇太子時代に  
 お参りされた時に整備され  
 たそうです。

肝付町へは鹿屋市を通過して行きます。鹿屋市には商業施設や  
 病院も多く、肝付の方もよく鹿屋市を言われている様子でした。  
 中には、生活の拠点を鹿屋に移される方もいらっしゃるそうです。



道中の車窓からの風景が本当に感動的でした！いつも海の向うに桜島がある私達にとっては 不思議な感じがありました。海に山に、自然の恵みがたくさんつまった月形町です。

ロケットの町！ならではのお話

ロケットの打ち上げ時には "もしも" のことがたくさん規定されます。打ち上げが失敗し、民家のある所に被害が及んだら、見学者がケガをしない...

その時のために、避難地区 というものが設定されています。避難所を設置しますが、インフルエンザの流行る時期には隔離室を、在宅療養されている方はショートステイへ、避難所にも福祉スタッフを配置。様々な工夫がなされていました。

また、月形町は山道が多し救急車の到着にもかなり時間がかかってしまうというので、傷病者の救命、救護のために救護所が置かれます。夏は熱中症も警戒されるので、ピラキボリでの注水喚起、給水の促しが行われます。月形町の特徴的な保健活動だと思いました。また、様々なことを想定し、重く大変さも感じました。

月形町がロケットの町になるまで

月形町がロケットの町になるまでには、半世紀以上の歴史があります。第2次世界大戦がおわったばかり、生活を再建する事が優先されるその時代に、ロケットを打つことには、やはり抵抗があったようです。そんな住民に、東京大学の研究者たちは、"科学技術の発展のために..." と話し続けました。月形の人々は、ロケット打ち上げを受け入れ、共に歩み、支えられました。温かく受け入れてくれた月形の土地柄がよく表れています。

月形町のロケット打ち上げは、実は4回失敗しています。世間のバッシングを受けることもあった中、住民はロケットを支え続けました。

そして、5号機で日本初、人工衛星 E の SE-ロケットが上がりました。その5号機には、地域への感謝を忘れないために、"オオミ" と名付けられました。

## 肝付、女性のちから!

ロボット打ち上げに向け、住民と研究者が頑張っていた日、肝付の男性は基本的に出稼ぎに出ていることが多かったそうです。そんな時にロボット打ち上げを支えたのは、肝付の女性でした。肝付までの道は山道で、研究者の車は、鹿屋市から来て仕事ができないほどの車酔いになっていました。優しい肝付のお母さん達は、「なにかわいそうなんだ」と一念発起、みんなが調理師免許をとり、民宿をひらきました。

「ロボットが何かはよく分からないけど、これによって仕事ができるのはかわいそうだ!」というお母さんたちの優しさは素敵だと思いました。また、当時の夫人会長キミさんのお話を印象的でした。キミさんは地域の保健師のよう方で、家庭の中で子どもを育てるにあたり、どう衛生を保てば良いのか、ということ等、地域のお母さんに教えていたそうです。当時の肝付のお話ですが、現代の地域を生きるのに大切な知識システムが、つまっていると思います。

## 肝付の防災

肝付で先日行われた、認知症の徘徊者を捜索模擬訓練の話を書きました。訓練ですが、楽しいワークショップにアレンジされているのが凄いなと思いました。印象に残ったのが、「訓練の時はたくさん失敗しておく」という言葉。練習で失敗したところは、本番でもおもしろく上手いかなだろうということ。この失敗を通して、地域の人々やITの改修者が、「モロ」と意識を高め、姿が素晴らしいなと思いました。このイベントは、福祉×IT×観光×健康づくりというコラボレーションで行われました。

多職種のコラボ、地域とのつながり、は日頃から本当に大切なことと学びました。またこのイベントは現場が主体となって先導する、という地域の人々と話し合いながら行われていると感じました。肝付の地域のつながりの強さ、このつながりが防災になっている!と思いました。また、このイベントに健康づくりが入っているのが不思議だったのですが、これは肝付町の介保が高く、(県内第3位!) 日頃から健康づくりという地域のニーズから生まれたものだと思います。地域のニーズに応える方法が本当にたくさんあるのだなあ、と感動しました。



↑ ロボットについてお話頂きました!



↑ お家で見せて頂いた、テレビ電話。

# 大浦町 に到着!

大浦町には耳家の落人伝説があり、地区の入りにには、八幡様が祀られています。わもプロジェクトの目的があるところです。今、大浦町までの主要な道路が小水力発電所を作るために通行止めになっており、山道を抜くため、高度なドラッグテクニックが必要とされます(笑) また、地区の入りにには黒電話が入ったことを記念する石碑が建てられています。情報政策係長の「ITはインフラだ」という信念のもと、地区には全く光ファイバーがひかれているそうです。また、国のモデル事業の一貫として各家庭にテレビ電話が導入されています。



お会合の折はふが作った、大浦の野菜のスープ。

大浦で作られた(たぶんと思い)おいしいお米のおこし。

手作り梅干し車酔いの予防にgoodだそうです。

高齢化率100%のこの地区では、車を運転できるのが男性1人。救急者もここまで来るのに1.5hかかります。そのため、予防や異変に早く気付くためにモ置かれています。ITがあると強いなと思います。また、地域の横の連携を築くにも有効です。

到着すると、地区の住民のみなさん(白坂さんとたさん!)、支援センターのみなさんに温かく迎えて頂きました。料理がとってもおいしかったです!



また、料理をかみながら、色々なお話をしました。「孫とご飯食べたい」と温かく接して頂きました。大浦では、野菜やお米づくりが主なお仕事だそうです。雨の日は寝るに限る!としゃべっていました(笑) 午後の朝の散歩で小学校まで来てラジオ体操をされるそうで、とっても健康的です。また晴れた日には校庭から海に種子島が見えることも教えてもらいました。みなさん大浦が大好きなんだなあと、感じました。ご飯中にはおれちゃんの素敵なお料理も見ることができました!!! 夢に向かって頑張る姿がとっても素敵で、大浦の方をも楽しませていました。私達もかん歌を歌いました! 今回で大浦のことをたくさん学べたので、次、歌詞通りに活かしたいと思います(笑) 温かいおもてなしを頂き、お宅訪問へ向かいました。

私達は3人で、 S さんのお家にお邪魔しました。

T さんの旦那さんです! お家にあがる時、腰の段差があるのが気になりました。85歳というお年を考えると、注釈してもらう必要があるなと思いました。

お宅に伺った時は寝ていらっしゃるようで、「雨の日は寝る」とおっしゃっていました。日青れの日には畑仕事があるようですが、心筋細動という持病があり 立ちたり動いたりすると動悸・息切れがあるので奥さんにお任せしているようです。畑仕事以外は近所のお家へ遊びに行ったり、朝・夕と歩みに行ったりされるようです。大浦の良い所は

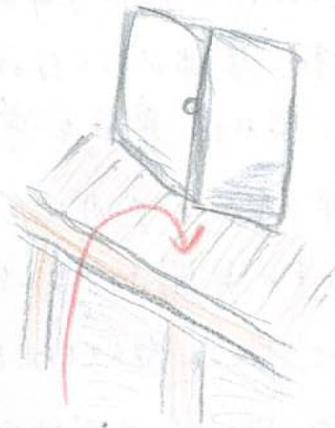
「のびに過ぎせる所」とおっしゃっていて、ゆったりとした光男さんのライフスタイルに合わせてとても素敵な所だと感じました。鹿屋市に住んでいる娘さん光子さんが時々訪ねてこられ、

「呼んだらいつでも来てくれる」とうで、心強いとおっしゃっていました。

光男さんの最近の楽しみは 食べること! だそうです。たづ子さんの手料理がとてもおいしいそうです。たづ子さんが畑仕事などでいない時は自分で作られるそうです。支え合って生活されているんだなと思いました。

お部屋の奥にはテレビ電話とたづさんのお孫さんの写真がありました。テレビ電話は顔も見えるし便利、よく使うとおっしゃっていました。また最近ひ孫が生まれたそうです。会いに行くととても楽しみにされています。

大浦の良いところ、また光男さんの暮らしをたづさん話して頂きました。一見少し不便そうに見える大浦の生活でしたが、大浦のゆったりとした空気、暮らし、人のつながりが魅力的で、大浦の方がここで暮らし続ける理由が、分かりました。また大浦の方が大切にされているもの、ことを私をもっと理解したいと思いました。光男さん、本当にありがとうございました!



熊勢さんの、帰りのバスの中でのお話がとても心に残っています。

「人は二度死ぬ。一度は生命の死、もう一度は人の記憶からの死だ。」  
という話です。実体がなくなっても、誰かの心の中や話の中、記録の中に  
残れたら、それは尊厳を守れたと言われるのではないかと、私を思いました。  
高齢化率100%の大浦地区が人の記憶に残るためには、訪問させて  
頂いた私達が見聞したこと伝えていくことが大切だと思います。また、温か  
く迎えて頂き、たくさん教えてもらった大浦の魅力を私を、忘れたくないと強く思  
いました。また、肝付町、大浦地区に行きたいです。

貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

